

尿路結石による閉塞性腎盂腎炎の治療法に関する多施設共同研究
REtrospective multicenter AnaLysis of patients with
obStructive pyelonephritis As a result of urolithiasis
(REAL-SAIHI)
に対するご協力をお願い

研究の目的と意義	<p>尿路結石による尿路閉塞を伴う急性腎盂腎炎は複雑性尿路感染症に分類されています。その内20-37%の症例が敗血症となって、致死率は0-3%とされています。このため、このような重症例においては適切な抗菌薬投与、および迅速なドレナージ（体内に貯留した血液・膿・浸出液を体外に排出する医療行為）が重要となります。</p> <p>そして多施設のこのような症例を集めて治療成績を検討することは、今後の結石性腎盂腎炎の管理法を確立するうえで有意義であり、全国済生会泌尿器科医会に属する施設の泌尿器科における外傷症例を後ろ向きに集積して検討を行う事により、今後の尿路結石による閉塞性腎盂腎炎の治療法の向上に寄与する可能性があります。</p>
研究の方法	<p>通常の医療において取得された診療情報（既存情報）を用いて行われる多施設共同研究です。</p> <p>侵襲を伴わず介入を行わず、人体から取得された試料を用いない既存の情報を利用した観察研究です。</p>
対象者	西暦2018年1月1日～2022年12月31日の間で、済生会横浜市東部病院 泌尿器科でドレナージを施行した尿路結石による閉塞性腎盂腎炎で通院や入院をされた方。
利用する試料/情報	<ol style="list-style-type: none">① 患者背景：年齢、性別、身長、体重、患者の状態（パフォーマンスステータス、意識障害、基礎疾患）② 結石の状態：（部位、大きさ）③ 感染症、治療の詳細：ICU入室の有無、SIRS, DIC, SOFA, 血液培養、尿培養、抗生剤の詳細（種類、日数）、昇圧剤の種類、透析の有無、血液生化学データ④ ドレナージの詳細：施行日、種類⑤ 術後因子：ICU在室日数、術後在院日数、解熱期間、術後合併症、死亡の有無⑥ 治療時期：2018年1月1日～2022年12月31日
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	<p>【研究代表機関】 済生会川口総合病院 泌尿器科 橋本 恭伸</p> <p>【研究分担機関】 済生会横浜市東部病院 泌尿器科 石田 勝 済生会宇都宮病院 泌尿器科 戸邊 豊総</p>

	济生会川口総合病院 泌尿器科 橋本 恭伸 济生会加須病院 泌尿器科 小林 裕 济生会松阪総合病院 泌尿器科 金原 弘幸 济生会野江病院 泌尿器科 河 源 济生会富田林病院 泌尿器科 畑中 祐二 济生会山口総合病院 泌尿器科 大場 一生 香川県济生会病院 泌尿器科 菅本 隆雄 济生会滋賀県病院 泌尿器科 瀧本 啓太 龍ヶ崎济生会病院 泌尿器科 白岩 浩志 千葉県济生会習志野病院 泌尿器科 三上 和男 济生会新潟病院 泌尿器科 車田 茂徳 济生会吹田病院 泌尿器科 中村 晃和 山口県济生会豊浦病院 泌尿器科 上領 頼啓 济生会熊本病院 泌尿器科 渡邊 紳一郎
試料/情報の 院外提供	提供先機関・提供先責任者：济生会川口総合病院 泌尿器科 橋本 恭伸 提供方法：収集した情報から氏名等の特定の個人を識別できる情報を削除した状態で電子媒体の状態を送付します。
結果公表	本研究の成果は学術論文や関連学会等において発表する予定です。
研究参加拒否・同意 撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年1月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	济生会横浜市東部病院 泌尿器科/部長/石田 勝
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 济生会横浜市東部病院 泌尿器科/石田 勝